

& SKILL SET

組織が変わる!

チームワーク

マネジメントとは?

ヌーラボ
ビジネスグロース部 部長

原田泰裕

PIVOT
プロダクトマネージャー

蜂須賀大貴

PIVOT
MC/コンテンツプランナー

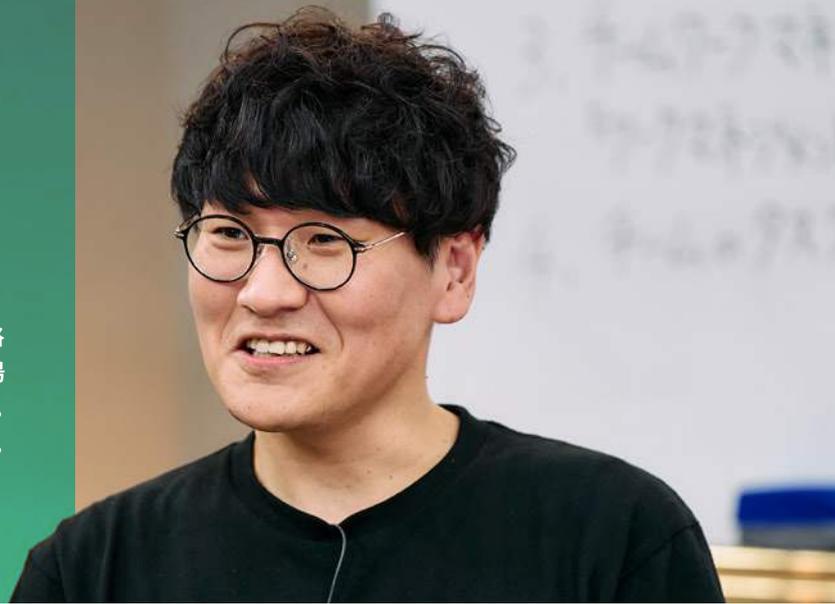
野嶋紗己子



ヌーラボ
ビジネスグロース部 部長

原田泰裕

BtoC~BtoB問わず商品・サービスのマーケティング戦略の策定などコンサルティングに従事。東証プライム上場メーカー子会社でリテール戦略部門管理職を歴任。2022年に株式会社ヌーラボへ入社し、2023年より現職。



野嶋 リモートワークや働き方の多様化で、必要性が増しているといわれるのが“チームワークマネジメント”です。しかし「具体的に何をすればいいのかわからない」「そもそも、なぜ必要なのかよくわからない」という方も多いのではないのでしょうか。

このチームワークマネジメントの重要性や具体的な方法について、チームワークマネジメントの専門家

である、株式会社ヌーラボ ビジネスグロース部責任者の原田泰裕さんに伺います。ユーザー視点から、日常業務でヌーラボ社が提供するプロジェクト管理ツール「Backlog(バックログ)」を活用しているPIVOTプロダクトマネージャー・蜂須賀大貴も同席します。

原田・蜂須賀 よろしくお願ひします。

「チームワークマネジメント」とは何か？

野嶋 今回のテーマである「チームワークマネジメント」という言葉は、「チームワーク」と「ワークマネジメント」を組み合わせた言葉かと思いますが、具体的にはどのような意味を持っているのでしょうか？

原田 複数の組織やチームが連携し、それぞれのメンバーが共通の目標を達成するためのプロセスを「チームワークマネジメント」と定義しています。重要なのは、チームワークとワークマネジメント、どちらか一方だけでは不十分だということです。

野嶋 「チームワーク」だけではダメで、「ワークマネジメント」だけでもダメ。蜂須賀さんはエンジニアを取りまとめるチームのリーダーとしてプロジェクトベースで業務を進めていますが、この感覚はありますか？

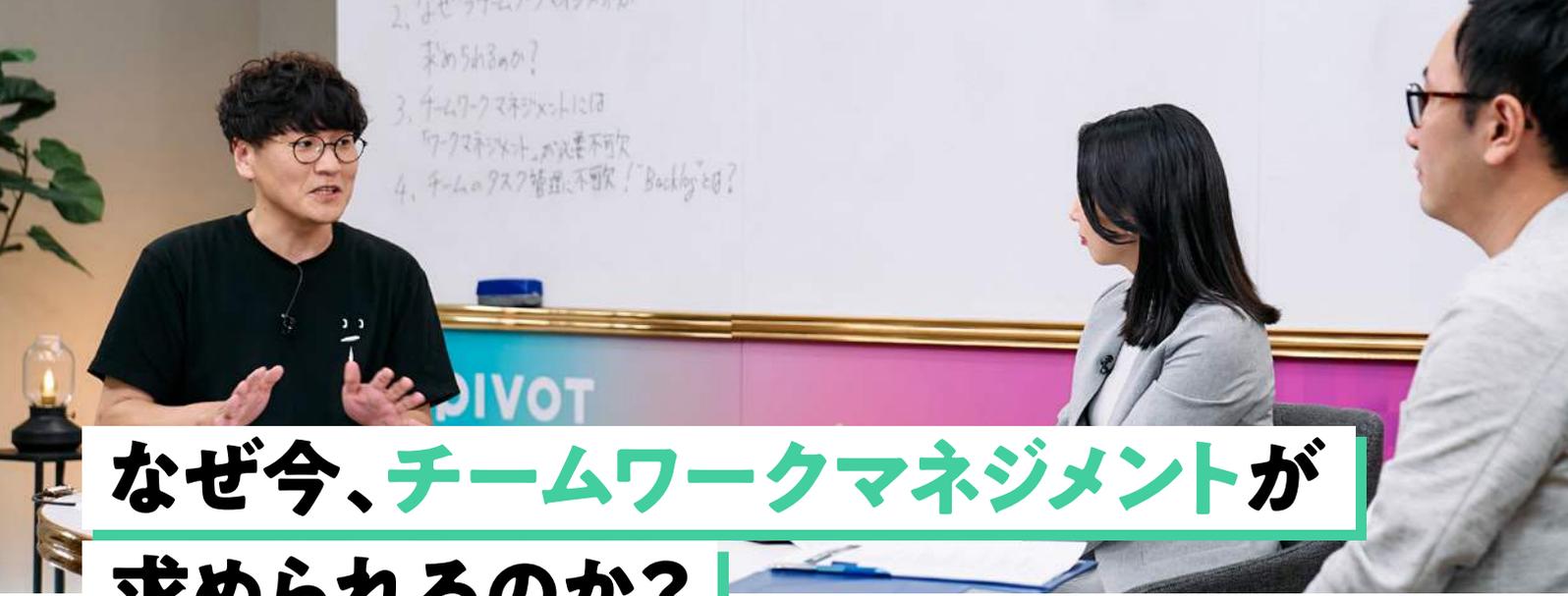
蜂須賀 そうですね。実際のところ、チームワークが

良いだけでは仕事は進みません。和気あいあいとした雰囲気でも、しかし仕事はなかなか進まない……というのはよくあるケースだと思います。

一方で、ワークマネジメントだけを重視して、各メンバーが自分の仕事に集中しすぎるのも問題です。個々のタスク管理はできても、大きな目標を見失ったり、他の部門との連携がうまくいかずにプロジェクト全体が滞ってしまったりするリスクが生じるからです。

野嶋 なるほど。チームで仕事をする上では、両方のバランスが大切なのですね。

原田 その通りです。チームワークとワークマネジメント、両方のバランスを取りながら、チーム全体で成果を最大化していく。それがチームワークマネジメントの目指すところですよ。



なぜ今、チームワークマネジメントが求められるのか？

野嶋 そもそも、なぜ今チームワークマネジメントが必要なのですか？

原田 例えば、企業の「DX推進チーム」のように、異なる部門から集まったメンバーでチームを組んだとしましょう。部門ごとに働き方が異なるため、チームとしてまとまりにくかったり、メンバー同士のコミュニケーションに課題を感じたりすることがありますよね。

近年は、業務委託やリモートワークといった働き方の多様化、他企業とのプロジェクトの活発化などにより、チームメンバーが異なる場所で働くケースも増えています。そのような環境下では、オフィスで机

を並べていたときのようなスムーズな情報共有やコミュニケーションは難しいでしょう。

蜂須賀 私たちPIVOTでも創業当初からリモートワークを取り入れています。以前は「あの案件はどうなっているんだろう？」「相手の状況が見えなくて声をかけづらい」といった問題がたびたび発生していました。スピーディーな成長をめざす上では、重要な課題だと感じていました。

野嶋 確かに、それは困ります。離れた場所で働くメンバー同士のチームワークマネジメントが重要なのですね。



蜂須賀大貴 PIVOT
プロダクトマネージャー

エンジニア、プロジェクトマネジメント、新規事業開発などを経て、メディア業界一筋のプロダクトマネージャーとして従事。IMAGICA(現・IMAGICA Lab.)、フリーランス(複業)、サイカを経て現職。キー局、映画会社、VOD事業者をはじめとする多くのメディア企業のプロジェクトを担当。キャリアを通じて一貫した経験から、メディア業界の人脈と知見を持つ。



野嶋紗己子 PIVOT
MC/コンテンツプランナー

毎日放送(MBS)のアナウンサーとして、「ミント!」「よんちゃんTV」など情報報道番組のサブキャスターなど、報道・経済関連番組からラジオのパーソナリティ、イベント司会など幅広く担当。2024年1月よりPIVOTにMC/コンテンツプランナーとして参画。番組出演・企画制作を担当。

メンバー全員がリーダーシップを 発揮するのが理想

野嶋 では、チームワークマネジメントを実践し、成果を上げるためには、具体的にどのような要素が必要なのでしょうか？

原田 まず大前提として、「チームで何を目指しているのか」という共通認識を持つために、明確な目標設定を行うことが重要です。その上で、チームメンバーそれぞれの役割を明確にし、責任を持って仕事に取り組めるようにする必要があります。そして、リーダーだけが引っ張っていくのではなく、メンバー全員がリーダーシップを発揮し、周囲に良い影響を与えながら仕事を進めていくことが重要です。

野嶋 リーダーシップは、リーダーだけが発揮するものではないんですね。プロジェクトリーダーである蜂須賀さんは、どう思われますか？

蜂須賀 おっしゃる通りだと思います。現実問題として、プロジェクトリーダーが個々の進捗確認に時間

を取られすぎると、リーダーの本質的な仕事に割く時間が不足してしまいます。

各メンバーがプロジェクト全体の目標を意識し、責任感と当事者意識を持って行動してくれば、リーダーは「どうチームを強くしていくか」「どう目標に向かうか」といった本質的な課題にフォーカスできるようになり、結果的に「強いチーム」が育つはずで

原田 まさに、メンバー全員がリーダーシップを発揮できる状態に持っていくのが「チームワークマネジメント」なのです。そのためには、チーム全体でタスクを可視化し、進捗状況を共有する「ワークマネジメント」が欠かせません。

野嶋 確かに、タスクの進捗状況が可視化されていれば、わざわざ相手に確認しなくても、状況を把握できますね。

チームワークマネジメントに必要な要素

01



目標を設定する

チームは共通の目標や目的のために協力して行動する

02



役割を明確にする

責任を果たすことで、チーム力が生まれて成功に近づく

03



リーダーシップを発揮する

リーダーシップとは役割ではなく周りに及ぼす影響のこと

チームのタスク管理に不可欠な

「Backlog」とは？

原田 しかしながら、多くの企業では、そもそも「チームでタスクを管理する」という概念がなく、「タスク管理は面倒くさい」というイメージが先行しているのが現状です。しかし実際には、チームでタスク管理ができる仕組みを導入することで、業務の効率化やコミュニケーションの円滑化など、多くのメリットがあります。

野嶋 原田さんのお話を伺うまでは、個人のタスク管理はしていても「チームでタスクを管理する」という概念は私にもありませんでした。チームのタスク管理は、具体的にどのような手順で行えばいいのでしょうか？

原田 まずは、チーム全体でどのようなタスクが発生しているのかを洗い出し、リスト化していくことが重

要です。そして、それぞれのタスクに担当者と期限を設定し、進捗状況を随時更新していきます。

このとき、Excelなどの表計算ソフトを使って管理する方法もありますが、より効率的にチームのタスク管理を進めたい場合は、当社の「Backlog」など専用のタスク管理ツールを導入するのがお勧めです。

野嶋 蜂須賀さんは、普段から仕事でBacklogを利用しているとのことですが、チームワークマネジメントの点でどんなところが便利だと感じていますか？

蜂須賀 日本で一番使われているタスク管理ツールはExcelだと思います。しかし、タスク管理用のガントチャートを作るには“Excel職人”のような熟達者がいなくてはなりませんし、変更や更新の作業も属人化してしまいます。

Backlogで 可視化できるもの

01 「各メンバーが抱える業務量」



プロマネの視点

誰がどれくらいのタスクを抱えているのかが一目瞭然。業務量の偏りにもすぐに気づけます。



一方、Backlogは機能を絞ったシンプルなツールです。誰でも簡単に使いこなせる点が魅力です。タスクの進捗状況が一目で分かるガントチャートや、タスクごとにコミュニケーションを取ることができるコメント機能など、チームで仕事を進める上で便利な機能が充実しています。

野嶋 機能が制限されていることはむしろ“利点”なのでしょうか？

蜂須賀 機能が多すぎると、マニュアルが増えて、ツールを使うのがかえって面倒になる人も出てきます。なので、シンプルで使いやすいほうが、皆にとっていいですよ。

実際に、チーム全体でBacklogを使うようになり、誰が何をしているのか、どのタスクが遅れているのか

などが一目で分かるようになったことで、無駄な会議や報告が減り、業務効率が大幅に改善しました。また、タスクに関する情報共有やコミュニケーションがスムーズになったことで、チーム全体の連携も強化されました。

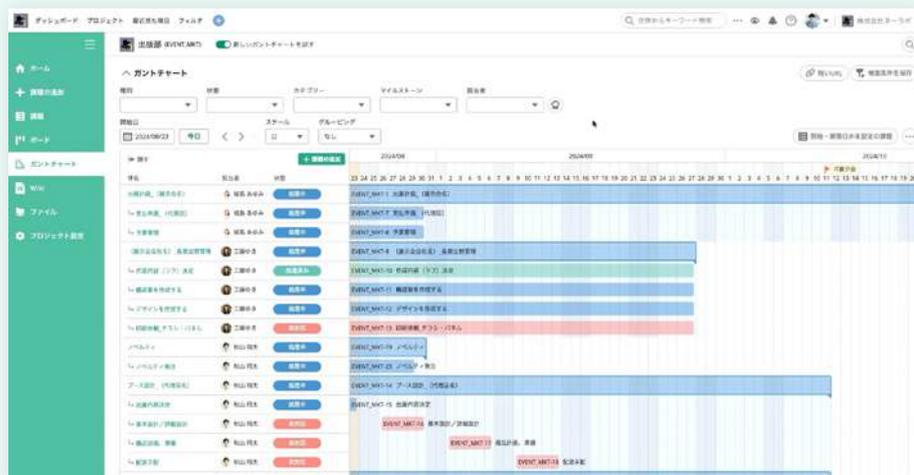
例えば、全体ミーティングの場だと個人を「詰める」ように見えてしまうことも、コメント機能では本人だけに声かけができるので、チームワークを維持する上でも助かっています。

野嶋 Backlogを導入することで、チームワークの向上にもつながったんですね。では、Backlogを導入すれば、チームワークの問題はすべて解決！……ということになりますか？

原田 いえ。大切なのは「チームでタスクが見える化し

Backlogで 可視化できるもの

02 「メンバーごとのタスクの進捗状況」



プロマネの視点

タスクごとに達成目標日を設定できるので、進捗管理やフォローがしやすいのも魅力。



よう」という意識付けです。チームでタスクを上手に管理している企業では、やはりマネージャーの方がメンバーにこまめに声かけをしているケースが多いで

す。タスクを書き出させる、モニタリング(進捗確認)する、完了させる。それぞれのステップを伴走することが重要です。

チームでタスクを上手に管理している企業は

01



タスクを書き出させる

02



タスクをモニタリングする

03



タスクを完了させる

Backlogで
可視化できるもの

03 「タスクごとのToDo管理」



プロマネの視点

タスク達成に必要なToDoをメンバーと共有。相談・指導が必要な場合も、画面上ですぐにコミュニケーションが取れるので便利です。



Backlog 導入企業の好事例

野嶋 実際にBacklogを導入した事例を教えてくださいませんか？

原田 はい。ある不動産会社では、多数の管理会社とのやり取りをすべてメールで行い、タスクが肥大化していました。そこでBacklogを導入し、管理会社ごとにプロジェクトを作成してやり取りを一元化。その結果、賃貸契約や請求業務などが効率化され、コミュニケーションもスムーズになりました。

野嶋 なるほど。請求書の管理などもBacklogでできるんですね。

原田 はい、Backlogはさまざまな業務に対応できる柔軟性も持ち合わせています。

また、ある省庁の事例では、100社を超えるベンダーとのやり取りの一切をメールで行っていました。Backlogを導入し、ベンダーとのコミュニケーションを一元管理するようになったところ、情報共有がスムーズになり、業務効率が大幅に向上したというケースもあります。

野嶋 膨大な数のベンダーとのやり取りをメールで行うのは、想像するだけでも大変です……！

Backlogは、マネジメントされている人の意識を変えるものでもあり、マネジメントしている人を助けるものでもある。ある意味“ゲームチェンジャー”と言ってもいいのではないのでしょうか。

原田 おっしゃる通りです。このように、Backlogはさまざまな業種・規模の組織で、業務効率化やコミュニケーションの改善に貢献しています。

チームワークマネジメントは、業種や職種を問わず、チームで仕事をする上で欠かせないものです。リモートワークの浸透など、働き方が多様化するなかで、その重要性はますます高まっています。ぜひ、この機会にBacklogを導入し、チームワークマネジメントにつなげていただければと思います。

野嶋 私も「チームワークマネジメント」を意識していきたいと思います。本日は貴重なお話をありがとうございました！

原田・蜂須賀 ありがとうございました。

構成／宮本恵理子、久慈桃子 撮影／森本修大 デザイン／PIVOT

nulab



株式会社ヌーラボ
<https://nulab.com/ja/>

backlog
by nulab



サービスサイト
<https://backlog.com/ja/>

Backlogの特徴や活用方法などが分かるBacklogのサービスサイトはこちら



導入事例
<https://backlog.com/ja/customers/>



チームワークマネジメント総研
<https://ascii.jp/backlog/>